



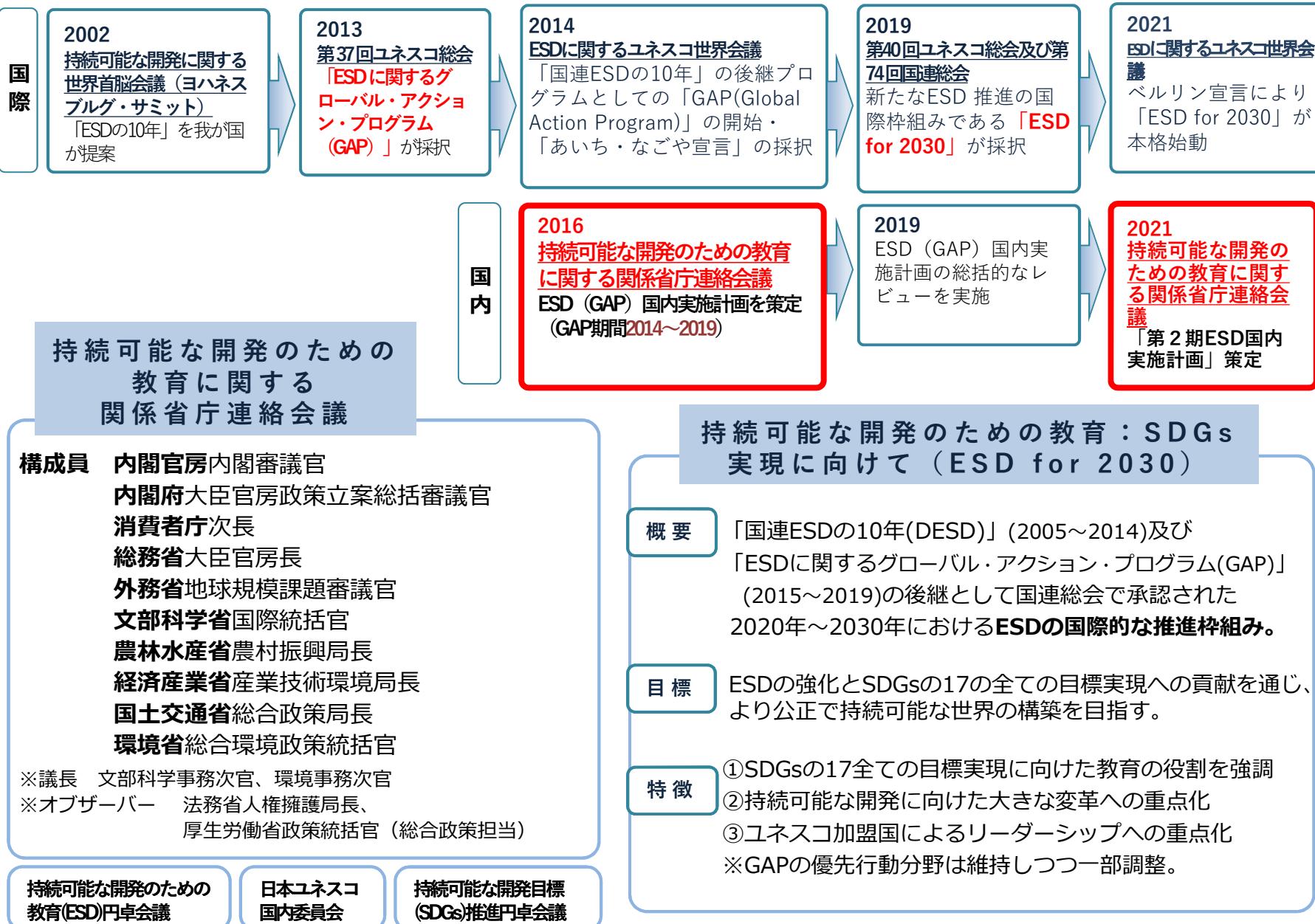
# ESDベルリン世界会議と国内ESD/ローカルSDGs

ESD-Jオンラインセミナーシリーズ第4回  
「ESDの新たな展開を考える ～ESD世界会議の結果を踏まえて～」

令和3（2021）年7月24日  
環境省 環境教育推進室



# ESD推進の経緯

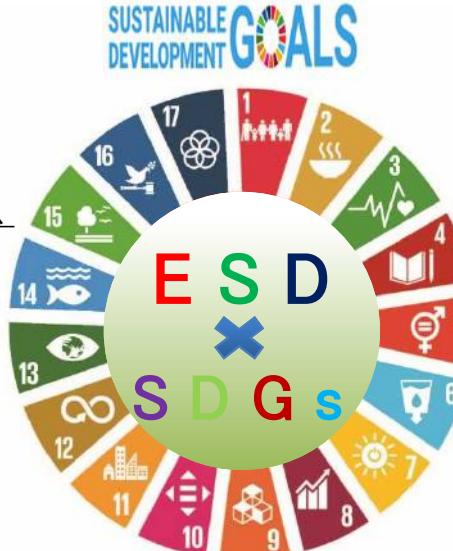


# 第2期ESD国内実施計画～SDGs達成のための教育の推進～

令和3年5月  
文部科学省・環境省

## 第2期ESD国内実施計画

- オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、世界のESDをリードしていくために、関係省庁が連携し、ESD国内実施計画を策定。
- 次期計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化。ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成。
- ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込む方策や、「ESD for 2030」に示された5つの優先分野ごとに国内の各ステークホルダーが実施する取組を記載（具体的には以下のとおり）。



## 経緯

- ESD（持続可能な開発のための教育）は、2002年に我が国が初めて提唱。その後、ユネスコを主導機関として国際的に推進。
- 2014年、ESD世界会議を国内（愛知県・名古屋市/岡山市）において開催。
- 2015年、国連においてSDGsが採択。
- SDGsの全てのゴールの実現への貢献により、公正で持続可能な世界を目指す「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが国連総会において採択。
- 2021年5月、ESD世界会議をキックオフとして「ESD for 2030」が本格始動。

### 1. ESDを実践するために多様なステークホルダーを巻き込む

- 政府は「ユネスコ未来共創プラットフォーム」や「ESD推進ネットワーク」等を活用し、自治体、NGO/NPO、企業、研究・教育機関等をつなぐ重層的なネットワークを強化。
- 国内ののみならず国際的にも情報発信を強化し、連携を図る。

### 2. ステークホルダーごとの具体的な取組を5つの優先行動分野別に記載



#### 1. 政策の推進

- ・SDGs関連政策へのESDの反映
- ・教育政策へのESDの位置付け
- ・地球規模課題に係る施策におけるESDの実施等について記載。



#### 2. 学習環境の変革

- ・学習指導要領に基づくESDの実施
- ・ICT化を通じた教育環境の充実
- ・機関包括型アプローチの推進に向けたネットワークの形成・強化等について記載。



#### 3. 教育者の能力構築

- ・教員等に対する研修等
- ・ESD推進の手引の作成・活用
- ・各機関においてESDを実践する者の育成等について記載。



#### 4. ユースのエンパワーメントと参加の奨励

- ・ユース同士のコミュニティづくり
- ・国際的な議論にユースが参加できる環境づくり
- ・青少年の交流の推進等について記載。



#### 5. 地域レベルでの活動の促進

- ・ESDによるローカルSDGsの推進
- ・全国的なESD支援のためのネットワーク機能の発揮等について記載。

# ESD推進ネットワークの整備

経緯: ESD国内実施計画に基づき、文部科学省と環境省が共同で2016年度にESD活動支援センター(全国センター)を、2017年度に8箇所の地方ESD活動支援センター(地方センター)を開設。

体制: ESD活動支援センター、地方ESD活動支援センター、地域ESD推進拠点、ESD活動支援企画運営委員会で構成。

機能: ①ESD活動を支援する情報共有機能、②現場のニーズを反映したESD活動の支援機能、  
③ESD活動のネットワーク形成、ESD実践の学びあいの場の促進機能、④人材育成機能



## 学習者

学校、地域、職場などでESDに取り組んでいる多様な実践主体  
(ESD活動現場)

NPOや一般社団法人、学校など  
様々な登録団体で構成。  
ESDに取り組みたい学校・地域・  
企業等に対して、団体の強みを  
活かしながら支援や働きかけを行う。

ESDに取り組もうとしている多様な主体  
(潜在的な活動主体)

地域ESD活動推進拠点  
(地域ESD拠点) **145拠点**  
(2021年6月現在)

協力組織・団体 37か所



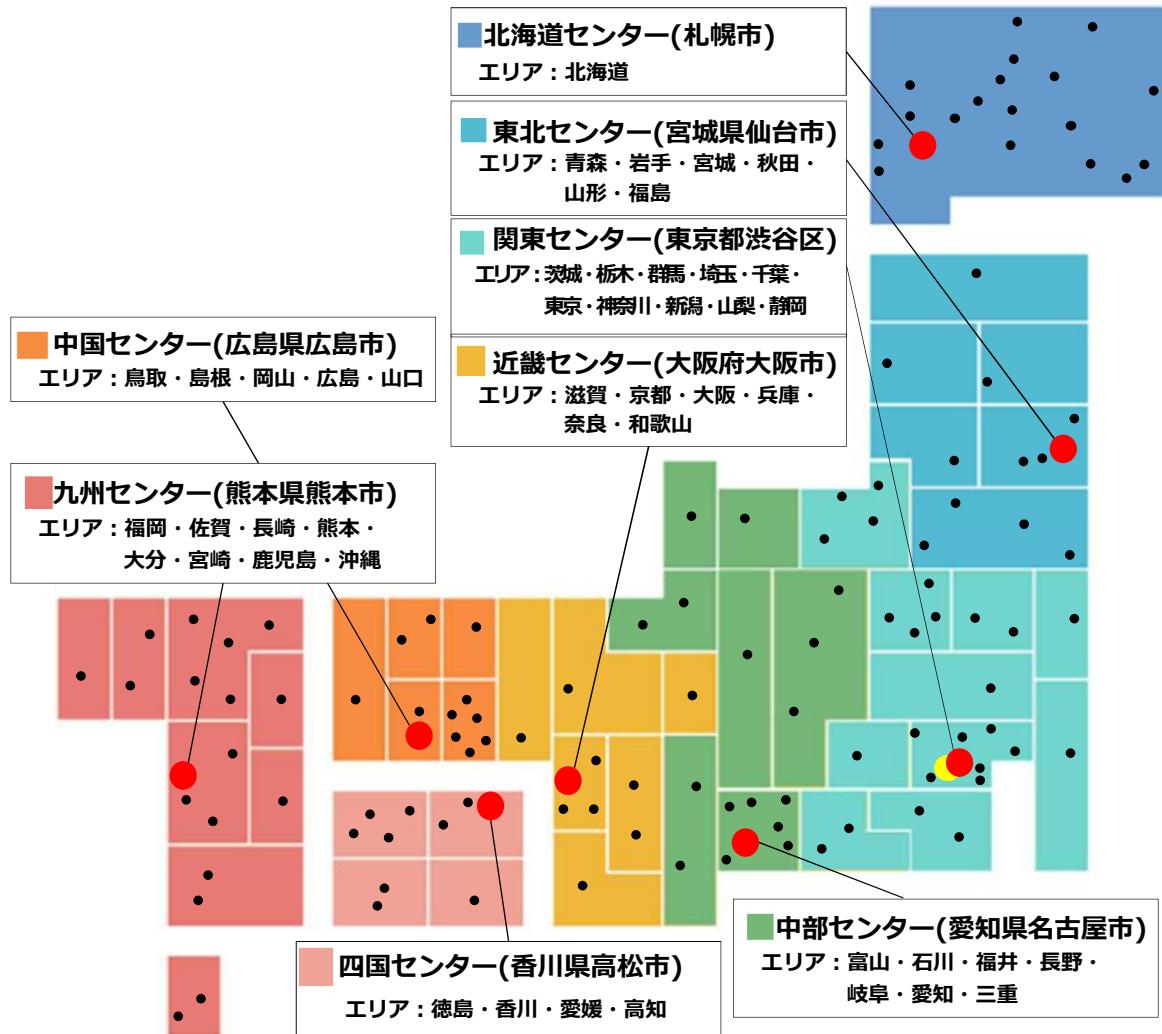
ネットワーク活動への  
助言や評価

ESD活動支援センター  
地方センター  
(全国8か所)  
全国センター

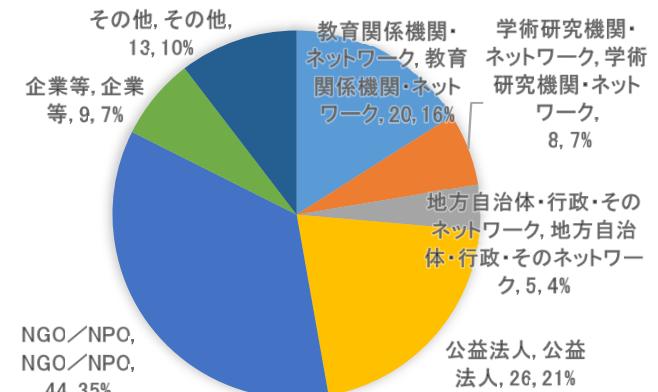
環境省事業が直接  
実施する範囲

# ESD推進ネットワーク

- 全国センター(東京都) ● 地方ESD活動支援センター(地方8か所)
- 地域ESD拠点: 145地点(2021年6月現在)



## <地域ESD拠点の種別>(R2.6時点)



## <地域ESD拠点の例>

- 教育関係機関・ネットワーク
  - ☞ ユネスコスクール、教育委員会、社会教育施設、環境教育施設 等
- 学術・研究機関・ネットワーク
  - ☞ 大学 等
- 地方自治体・行政・ネットワーク
  - ☞ 勝山市、鹿島市建設環境部ラムサール条約推進室 等
- 公益法人
  - ☞ 公益財団法人キープ協会、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金 等
- NGO/NPO
  - ☞ NPO法人隠岐しぜんむら、NPO法人コープラムふくい 等
- 企業等
  - ☞ サンデンフォレスト、キヤノンテクノパーク、花王エコラボミュージアム 等
- その他
  - ☞ ESDコンソーシアム、国連大学RCE地域拠点 等

# 「気候変動問題をはじめとした地球環境問題に関する教育の充実について（通知） 文部科学省との連名

## 趣 旨

6月2日（水）に改正温対法が成立し公布されたことを受け、  
環境省と文部科学省の連名で、全国の教育委員会等に対し、地球環境問題に関する教育の充実について通知を発出

## 概 要

学校教育における環境教育の位置付けや、取り組む際の留意点、関連施策、SDGsや脱炭素社会実現など、地球環境問題に関する国内外の動きを踏まえた指導に資する最新の情報、地域における環境教育の展開のポイントなどを示している。

## 体験の機会の場関連

### 2. 地域等における環境教育の充実

#### （3）環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」の活用

体験活動を通じた環境教育には、自然体験のほか、持続可能な社会づくりを支える現場に触れる社会体験、日常生活と異なる文化や慣習などに触れる生活体験などがあります。環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成15年法律第130号）に基づく「体験の機会の場」は、企業や団体が提供している、このような体験活動の場について、体験プログラムの内容や安全性等一定の基準を確保するものとして都道府県知事又は政令市・中核市の市長の認定を受けたものです。

「体験の機会の場」における体験活動を通じた環境教育によって、子供たちの学びを深めていくことが重要です。

（参考）「体験の機会の場」の認定制度について

[http://www.env.go.jp/policy/post\\_57.html](http://www.env.go.jp/policy/post_57.html)

# 体験の機会の場の認定状況

## 背景・必要性

- 環境教育等促進法に基づく体験の機会の場認定制度は、土地又は建物の所有権等を有する国民や民間団体が、その土地又は建物で体験活動を提供する場合に、申請に基づき、都道府県知事の認定を受けることができる制度
- 森林や里山などの自然体験の場のほか、見学受入れや体験を行うエネルギー関連施設、環境に配慮して運営されている工場や施設、私立学校等が市民講座を実施している場などが認定されており、幅広い分野にわたって認定を取得することが可能

認定された「体験の機会の場」 25件(2021年7月時点)

<b>【愛知県】</b>
● KAYAMAファーム
○ 市田プラント
<b>【大阪市】</b>
○ あおぞら財団付属西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）
<b>【広島県】</b>
■ 株式会社オガワエコノス本山工場
<b>【岡山市】</b>
■ 藤クリーン株式会社リサイクルセンター
<b>【山口県】</b>
○ 株式会社中特ホールディングス
<b>【高知市】</b>
● 株式会社相愛
<b>【佐賀県】</b>
● いまり「こまなきの里山」



# 2050年脱炭素に向けた3つの移行

＜ウィズコロナ・ポストコロナの時代＞

「3つの移行」で経済社会をリデザイン（再設計）  
⇒地域循環共生圏（ローカルSDGs）の創造

脱炭素社会

循環経済

分散型社会

ESG金融・ナッジ等を  
活用した社会変革

環境外交の強化

基盤となる健康と環境を守る取組

東日本大震災から  
の復興・創生と  
未来志向の取組

●福島の環境再生  
に向けた取組の  
着実な実施

●未来志向の環  
境施策推進による  
復興加速

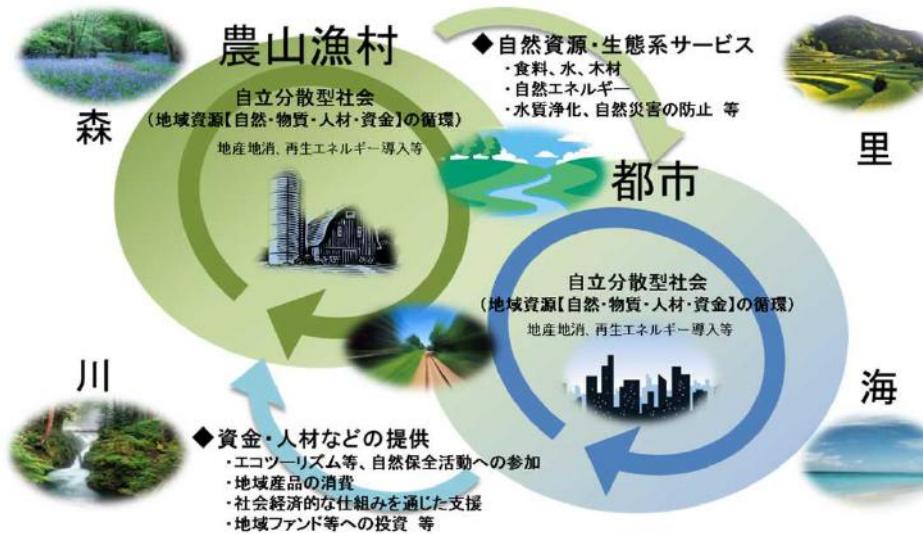
– 希望ある未来への  
リ・デザイン –

# 地域循環共生圏の形成

地域の活力が最大限に発揮されることを目指す

- 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
- 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**

第五次環境基本計画（閣議決定）



- ✓環境・経済・社会の統合的向上
- ✓あらゆる観点からイノベーションを創出
- ✓幅広いパートナーシップを充実・強化

地域の活性化・持続可能な地域

# 地域脱炭素における地域循環共生圏の視点

## 【従来の視点】

木材を海外から輸入  
(長距離輸送でCO<sub>2</sub>排出)

外部資本による発電事業

熱エネルギーは活用せず

電力を自給

## 【地域循環共生圏の視点】

地元の植林地・里山  
の木材資源を活用

地域主導の  
新電力会社で運営  
(ソーシャルビジネス)

熱は農業ハウス  
で有効活用

電力と熱を自給  
災害時のレジリエンス強化

健全な  
森林

里山の  
管理

土砂災害  
軽減

生物  
多様性

利益の一部を  
起業資金に融資

多様な雇用を創出

耕作放棄地減少

新たな特産品

観光  
振興  
自給率  
向上

# 真庭市の事例



出店:真庭市Webサイト

# グッドライフアワード



「みんなの力で社会は変わる！！」との理念の下  
草の根の国民参加型の事業として実施

## エコでソーシャルな活動（例）

都市と農村のエコな交流  
(自然保全)  
(環境×地域振興)



里地里山整備による復興  
(自然保全)  
(環境×復興)



住宅・交通シェアリング  
(省資源)  
(環境×コミュニティ)



地産地消サービス  
(省エネ・自然保全)  
(環境×農業)



### 環境問題

(資源・エネルギー、  
温暖化、自然破壊等)

表彰・  
普及

× 同時  
解決

最終  
目標



### 社会問題

(地域創生、少子高齢化、医療福祉等)

持続可能な  
暮らし

## ローカルSDGsリーダー研修



# SDGsユースダイアログ



令和3年 8月18日(水) 9:30～15:30

15:30～16:30 交流会(自由参加)

会場 ピギー貸会議室3C会議室(岡山市北区唐屋町2-5 安田岡山唐屋町ビル3階)

探検場所 岡山駅近郊のマチナカ(西川緑道公園・岡山駅周辺など)

定員 20名(先着順) 対象 15～22歳(高校生・大学生相当の年齢の方)

- 学び SDGsのキホンや身近な取組を知ろう
- 探検 マチナカでSDGsを見つけよう
- 作成 おかやまマチナカSDGsマップを作ろう
- 共有 身近なSDGsの気づきをシェアしよう



主催 SDGsネットワークおかやま(事務局:NPO法人岡山NPOセンター)  
お問い合わせ Email:sdgs.okayama.youth@gmail.com TEL:086-224-0995

共催 岡山ESD推進協議会、公益財団法人五井平和財団  
環境省中国四国地方環境事務所  
中国地方ESD活動支援センター

